西念寺だより　師走号

令和３年１２月２０日

〒610-0331 京田辺市田辺北里２９番地
TEL 0774-62-1027　FAX 0774-26-9683

お念仏の心を大切に、互いの人権を大切にしよう

田子の浦に　うち出でてみれば　白妙の
富士の高嶺に　雪は降りつつ（山部赤人）

いよいよ今年もあと僅かとなり、何かと気忙しい毎日が続いております。平素は寺門興隆に何かと御支援御協力いただき、心より厚く御礼申し上げます。

檀信徒の皆さまにとって今年はどんな一年でしたでしょうか？何をするにもコロナを抜きにして前に進めない状況が続きましたが、ワクチン接種が進み、変異株への不安は拭えませんが、少しずつ前向きな対応が可能になってきました。先日発表された今年の漢字に「金」が選ばれましたが、東京オリンピック・パラリンピックも、もはや遠い昔のよう感じます。他にも大谷翔平選手の活躍やタリバンによるアフガニスタン制圧など、改めて振り返ってみると、とても書き切れない程の出来事があった一年でした。

冒頭の和歌は奈良時代の歌人、山部赤人の作で、「田子の浦の海岸に出て、遠く彼方を眺めてみれば、雪をかぶった富士の山が見える。その美しい富士の高い峰には、今も真っ白な雪が降り続けているよ」と言った意味でしょうか。藤原定家がこの歌の「幽玄美」を絶賛したように、そっと目を閉じると白く美しいベールをまとったような繊細な冬の富士の美しさが脳裏に浮かぶ抒情的な歌です。現代は誰もが日々忙しさに追われ、季節の移り変わりや自然の美しさを見逃しがちです。年の瀬の慌ただしさの中にあっても、偶にはこのようなゆったりした気持ちで過ごしたいものです。

さて、今年も１２月４日から１０日までの人権週間には様々な啓発活動が展開されました。浄土宗でも宗祖法然上人の万人平等救済のみ教えに基づき、あらゆる差別の解消と人権に関する社会問題等に取り組まれています。

ところで、人権って一体、誰のためのものでしょうか？それは決して他人事ではなく、自分自身が人間らしく、心豊かに生きる為の自問自答から出発するものだと思います。

人を差別し、人の心を傷つけることは、自分にとっても好ましい事ではありません。差別について司馬遼太郎は『風塵抄』の中で、「差別ほど薄汚いものはない。よほど自己に自信がないか、あるいは自我の確立ができていないか、それとも自分に誇りを持てずにいるか、どちらかに違いない。差別とは、自分の心の怯みの投影にすぎない」と説いています。ＳＮＳ等の差別書き込み等を見ても、実はコンプレックスの裏返しではないかと思われるようなものが溢れています。強がって人を攻撃してみても、所詮は弱さのごまかしです。人間は誰でも弱さを持っていますが、本当に強い人は自分の弱さに素直に向き合うことのできる勇気を持っているものです。

人権の問題は難しく考えるのでは無く、自分が人からされて嫌なことは人にしない、人からされて嬉しかったことは少しでも誰かにお返しする、こんな簡単なことを通じて、法然上人が説かれたお念仏の心を大切に、互いに明るく仲良く毎日を有意義に生きて行く事、つまり人権の尊重とは「お互い様」ということではないでしょうか。

裏面に続く

【浄土宗月訓カレンダーのお届けについて】

西念寺だより等と共に「令和４年用浄土宗月訓カレンダー」をお届けいたします。前回お知らせしましたように、これまでの全檀信徒様への配布から、お申し込みいただいた方への配布に変更させていただきました。

令和５年用以降の扱いは以下のようにさせていただきますので、御確認お願いします。

・今回お申し込みいただいた方→不要連絡をいただくまで毎年継続してお届けします。
御不要になりました場合はその旨御連絡ください。

・今回お申込みされなかった方→お電話やＦＡＸ等で申込みいただきましたら次の年よりお届けします。

【お花の御寄進をいただきました】

今回も岩井正義様より丹精込めて育てられたお花を頂きました。プランターいっぱいにビオラやパンジーが植えられ、華やかな雰囲気に溢れています。

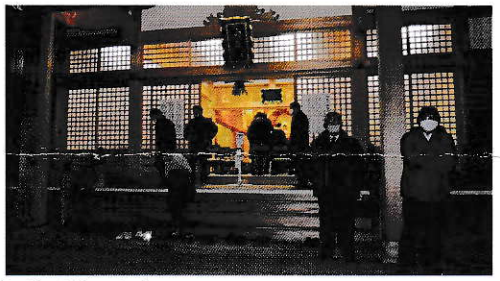
参詣者から、「凄く綺麗ですね！」とお声掛けいただき、お参りいただいた方の心を和ませてくれます。

誠に有り難うございました。

【除夜の鐘撞きのお知らせ】

別紙でもお知らせしておりますが、当山では、大晦日の午後１１時４５分頃から除夜の鐘撞きを実施しております。

除夜の鐘の起源は中国の寺院で行われていた風習だと言われています。梵鐘を仏具として使用していた中国で生まれた風習ではないかという説が有力です。



中国の寺院では、毎月末の夜に108回、鐘をついていたそうですが、宋の時代になってから大晦日だけになったそうです。鎌倉時代の末に中国から禅僧が来日し、その風習が日本の禅宗の寺院に伝わったと言われています。室町時代になると大晦日に梵鐘をつく風習が徐々に広まり、江戸時代には現在のように多くの寺院で撞かれるようになったようです。

鐘をつくタイミングもあり、正式には107回までを旧年中に、最後の一撞きは新年になってからつくそうです。鐘や鈴の音には、浄化作用があると言われていますし、旧年にあったいろんな出来事や思いを鐘の音と共に自身の心の中から放出し、新しい気持ちで新年を迎えるというわけです。

是非お揃いで除夜の鐘を撞きにお参りください。皆様の御参詣をお待ちしております。

【永代祠堂金御寄進のお知らせ】

岡本キミ子様御逝去に際し、御本人の遺言により後見人様より永代祠堂の御寄進をいただきました。毎年お盆のお施餓鬼法要にて永代供養を勤めさせていただきます。
心より御冥福をお祈りいたします。誠に有り難うございました。

・永代祠堂料　金２０万円　　為 慈教興仁信女菩提(故 岡 本 キミ子 様)

【院号料御寄進のお知らせ】

小西博巳様より小西義一様の御逝去に際し、院号(什器什物)料の御寄進をいただきました。元校長として、また音楽家としても活躍されました。御冥福をお祈りいたします。

・院号(什器什物)料　金３５万円 為 善巧院教誉義道純正居士菩提(故 小 西 義 一 様)
施 主 小 西 博 巳 様